

<p>問1 問いづくり授業をご覧になり、どのような感想（一言で表現するとしたら、印象に残ったプロセス、よかったこと、疑問や課題、改善案等）をもたれましたか。</p>	<p>問2 教員と学生の関係性、学生同士の関係性、学生と学習テーマの関係性、それぞれについて、何かお気づきになったことはありますか。</p>
<p>意外に問いが多かったこと、選択する段階では、かなり類似した問いに収束している様子が非常に印象的でした。</p>	<p>教員はコメント(評価)してしまいがちなので、あのような場で、どのような声掛けが望ましいのか、を考える機会があることは、教員にとっても、学生との関係性を見直すうえで、非常に良い機会ではないかと感じました。</p>
<p>今回のテーマでは難しかったかもしれないが、問いに対する回答を調べたりする方がよいと思った。</p>	<p>もうすこし教員が説明する時間を少なくして、学生がワークに取り込む時間を十分に取った方がよいと思った。</p>
<p>→学生のニーズ、希望をうまく引き出されており、そのプロセスも大変参考になりましたし、得られた情報も今後授業を設計していく上で貴重な資料になると思います。</p>	<p>教員と学生間、学生間のそれぞれで別の形ではありますが、相互に考えを刺激する形で新しいアイデアが生まれてきているように感じました。この新しいアイデアがまた、学生たちの学習のテーマにもなっており、質問だしシートは今後の講義の参考になります。</p>
<p>大変興味深かったです。どんな発想なことで問いを立ててきたのか後からかきとる際の発想の過程はどのような流れで進められていたのか、興味があります。また、質問の質も非常に高く、学生は自身の参加にもなるものも思いました。普段は、閉じた質問を多用してばかりだなとも感じます。</p>	<p>教員と学生の関係性)フレッシュセミナーのような少人数授業によって、入学生との良い関係性(学生と教員、相互に、どういふ人たちがというイメージが共有できて、良かったと思います。また、まだ進んでいるとは思っていません。(学生同士の関係性)この学科は人数が少なく、進捗までのペースが速いという点で、教員と学生が一緒する関係にそれこそ良いですね。近いうちに、フレッシュセミナーを通して、私の授業も進んでいくように思っています。この授業が面白いという点、質問の質が非常に高く、学生が積極的に参加している点、授業の中で、改めて、学生は思わなかった問いに答える姿勢が素晴らしいと感じました。</p>
<p>大変興味深かったです。どんな発想なことで問いを立ててきたのか後からかきとる際の発想の過程はどのような流れで進められていたのか、興味があります。また、質問の質も非常に高く、学生は自身の参加にもなるものも思いました。普段は、閉じた質問を多用してばかりだなとも感じます。</p>	<p>やはりアットホームなんだな、と感じました。1年生から全教員の顔を知れている、教員も学生の顔を見たことがあるというの素直らしいなと思います。</p>
<p>大変興味深かったです。どんな発想なことで問いを立ててきたのか後からかきとる際の発想の過程はどのような流れで進められていたのか、興味があります。また、質問の質も非常に高く、学生は自身の参加にもなるものも思いました。普段は、閉じた質問を多用してばかりだなとも感じます。</p>	<p>とても和気あいあいとしていて、好印象を持ちました。全教員、学生が一堂に会してやることも、学生と教員の距離が近い印象です。1回生から、学生と教員がお互いに顔と名前を把握できていけば、今後の学生生活も充実すると思います。学生同士も積極的に意見を出し合える関係性という印象を持ちました。</p>

問3 問いづくりはご自身の教育研究活動/職務あるいはその他のことに役に立ちそうですか。どのような場面でのご活用がイメージできますか。

<p>卒業研究でアンケート調査を行うにあたり、学生が自分でアンケートの質問を考えることが出来る、結果として教員が調査票設計の大半に携わってしまう傾向がありました。こうした経路を通じて、学生が自分でアンケートの質問を考える良い訓練になるのではないかと感じます。</p>	<p>質問を共有するところなどは産業生命科学研究1でも取り入れることができるかもしれない。</p>
<p>学生のニーズをとらえた情報として、教育活動に参考になる点も、自分の研究テーマである政策科学として、政策形成のアプローチとしても参考になりました。互いの意見や想いをうまく引き出す方法だったと思いますし、今後政策ニーズを引き出すワークショップでも使わせてもらいたいと思います。</p>	<p>大いに役立つ(役立つ)内容でした。ただ、たとえば私が担当している「生物数学」のような授業では、ある程度の基礎知識がない限り、いきなり問いづくりは難しいのではないかと感じました。このような講義では、基礎知識について講義した上で、その知識(たとえば、行列の計算や微分)などがどのように生物等に利用できるかについて、問いを考えさせるようなアレンジが必要かもしれません。また、教えてください。</p>
<p>1) 少人数での大学説明会(高校)、2) キャンパスアスタフのアイデアだし、3) 職員の仕事研修など 特に職員の研修は、KJ法を使っていることが多いのですが、質問立てる、というかたちは新しいと思います。評価をしない、聞いたままに質問内容を書き取る、というプロセスも、新鮮に感じるものかと思っています。</p>	<p>企業でも、会議(ほとんど不要なものが多いですが)によっては応用できるものがあると思いました。 企画会議など意見を出し合う際は、実践してみようと思います。拙いですが「評価」意見もせず、ひたすら出し続ける、そうすることで、今まで気づけなかった視点を発見できそうです。</p>



問いづくりワークの風景

省略